

画光 企観

観光振興の今後のビジョンについて

稲葉 親太郎

Q 富士山の世界文化遺産登録を目前に控え、関連市町村及び箱根ジオパーク並びに当町の観光連携構築や観光振興に関連する今後のビジョンについて

A

報道によると6月中旬にはユネスコ世界遺産委員会で登録審査を受け、正式に世界文化遺産に認定される見通しとなっている。

富士山の雄大で美しい姿は、芦ノ湖周辺、大涌谷、金時山、山頂等様々な場所から望むことができ、その眺望は箱根の大きな魅力で国内外のお客様に大変人気で、町としてもこのニュースは大変喜ばしいことである。

関連市町村の連携という点では富士箱根伊豆交流圏市町村ネットワーク会議とは別に国道138号線沿線の県域を越えた広域観光エリアでの連携強化を目的として、御殿場市、小山町、富士吉田市、忍野村及び山中湖村とともに富士・箱根国道138号沿線観光広域連絡協議会を組織し、例年、富士山を



テーマに名古屋屋の中心街、横浜駅コンコース内での観光展を実施し、観光PRに努めているところであり、先日、開催された総会においても話題には上ったが、具体的に行動はしていない。

本町では、一般財団法人箱根町観光協会が作成した富士山の見える絶景ポイントのパンフレットに世界文化遺産登録の暁には祝登録という意味でシールを作成して既存のパンフレットやポスターに貼付し改めてPRすることも考えている。

環境

震災漁網の受け入れについて

山田 和江

Q

寄せられた意見の件数と内容は。

A

5月末現在で延べ71名、内訳は、住民が19名、町外者、観光客の方が36名、他の方が16名。うち、賛成12名、反対43名。その他、質問等を16名から受けた。

Q

住民説明会を全町的にきめ細く行い、質疑時間を十分に確保して、県の職員も同席させて行うべきと考える。

A

最終処分場に隣接する地元自治会である畑宿自治会、芦之湯自治会の役員や会員の方、自治会連絡協議会の総会や箱根温泉旅館協同組合に説明をした。

住民のみなさんには、回覧「まちだより」において、漁網の安全性や受け入れの基準などについてお知らせをする。

Q

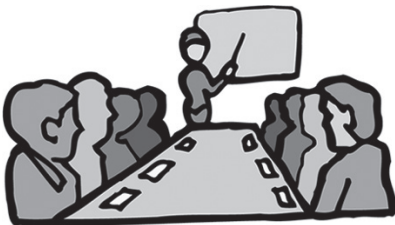
住民の不安が払拭されない限り、拙速に進めるべきではないと思う。住民合意が大前提であること

とを町民に約束をしていた。その際、観光客の声も受け入れに反映させるべきと考える。

A

漁網に対する不安や心配の声があることは承知しており、住民のみならず、皆さんの安全が最優先であることは言うまでもない。

住民や観光客の疑問に対しては、誠意をもって答えていきたい。なお、漁網の安全性は、国、県の見解、検査結果や、すでに金沢市が受け入れていることを踏まえると、安全であると判断されるが、地元の自治会に対しては、文書により安全性の担保について約束する予定でいる。



“議事を傍聴してみませんか”

議会は公開を原則にしていますので、どなたでも本会議の傍聴をすることができます。町政を身近に知るためにも議会の傍聴をおすすめします。

傍聴を希望される方は本会議の当日、議会事務局(箱根町役場本庁舎4階)で受付簿に住所、氏名などを記入していただくだけで結構です。

議会は6月・9月・12月・3月の年4回の定例会とそれ以外の月に開催される臨時会があります。

日程は議会運営委員会で決定されます。

詳しいことは、議会事務局までおたずね下さい。(☎85-9570)